

令和4年度 たちばなこども園 自己評価表

令和 5年 3月 30日

評価者氏名 園長 小林泰典

報告者氏名 主幹保育教諭 小林左代子

1. 本園の教育・保育目標

保育理念	より良い家庭環境を支援するため、当園を利用される方(子ども・保護者・地域)に最善を尽くすことを誇りとする
教育・保育方針	心と身体の自立を促す教育・保育
教育・保育の目標	・楽しく遊ぶ子 ・仲良く学ぶ子 ・元気に育つ子 (幼保小中一貫教育に鑑み、こども園の教育・保育で育む資質・能力を小学校に繋いでいきます)

2. 評価項目

教育課程・指導	「こども園教育・保育要領」を確認しながら、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」の作成をし、養護と教育の一体的な展開が出来るよう環境を整え保育を行い、子どもたちの姿に合わせ適宜、見直しをする。後に評価・課題・指導計画の作成の参考にする。
保健管理	嘱託医による内科検診、歯科検診を各年2回行い、保護者に結果を知らせ、虫歯がある場合は治療を勧め治療終了の確認を行う。登園時及び保育中の健康状態を観察、0歳児クラスは睡眠時の状態を観察記録票に記録する。学校薬剤師による学校環境衛生定期検査・学校給食衛生管理定期検査を行い、阿賀野市福祉課へ報告する。
特別支援教育	職員会議等で該当園児についての情報を共有。環境整備、保育の内容に配慮しつつ、他の園児との関わりによる成長・発達を促す。保護者や福祉課、「こころとことばの相談室」等の関係機関との連携を取り、助言を頂き、療育と園生活が一体となり、最善な援助が出来るよう取り組む。
組織運営	利用者には「入園のしおり」を配布、職員には就業規則を周知。有資格の職員を行政からの規則通りに配置し、各クラス複数担任とし、研修や休暇に対応出来る。経験年数の多い職員を主幹、チームに配置し、園児の安心感とともに充実した環境を作る。また、各職員の困り感や次年度に向けての希望などを話せる場として主幹保育教諭との懇談の時間を設ける。
研修 (資質向上の 取り組み)	教育・保育に従事する職員の研修会への参加、職員会議で各研修会の報告、情報の共有、園内研修を行い、資質向上に努める。また、キャリアアップ講習会参加の推奨をし、順に修了証を獲得する。
教育目標 学校評価	「楽しく遊ぶ子」「仲良く学ぶ子」「元気に育つ子」を目標にして、一人ひとりを大切に教育に取り組む。保育の質と安全の向上。0歳児から小中高校へと途切れない保育の連携。子育て支援と地域社会との連携を図る。各年齢別の目標と計画を作成。「こども園教育・保育要領」を確認しながら、指導計画を作成し、養護と教育の一体的な展開が出来るよう環境を整える。子どもたちの様子に合わせた見直しを行う。その記録を評価、課題を分析し次の指導計画へ反映する。
情報提供	たちばなこども園ホームページに情報の公開。保護者には園便り、クラス便り、その都度の連絡事項の配布。ホームページにて園の紹介、行事、苦情、相談について、また資産及び決算、園の自己評価等を掲載している。
保護者 地域住民 との連携	保護者には日頃から話しやすい関係を作り、信頼関係を築いていくことで、相談しやすさや園側からも協力をお願いしやすい体制を目指す。保護者総会や資料の配布により、年間行事予定を発表し、毎月のお便りや案内にて行事への参加、協力を呼び掛ける。園の保育方針を入園説明会で伝え、随時お便りや掲示物で周知、理解を求める。日頃から送迎時の声掛け等で意見を把握し、意見箱の設置、「苦情解決体制」を園内に掲示。地域住民には園の行事への参加案内。地元の行事への園児の参加。火事・地震等の災害時の避難の協力の要請等をお願いしている。保護者へ緊急を要する連絡を速やかに送れるように「安心メール」の活用を始めた。
子育て支援	地域の子育て支援を積極的に取り組む。主幹保育教諭が中心となり実施。保護者の支援は各担任と相談をしながら実施。未就園児に「たちばなひよっこクラブ」として遊びの場を設けて、子どもの遊びと母親の育児相談を実施。
預かり保育	一時預かり保育事業対応の職員を配置し、実施している。
教育環境整備	職員会議や研修等において「こども園教育・保育要領」や「幼児期に育てたい10の姿」を確認しながら、指導計画の作成及び実践の振り返りを行う。五感を通した様々な体験や経験が出来るような教育・保育内容になっているか職員間で見直し、課題を明確にしながら、理解を深める。専門家の指導による体操教室、英語教室を実施。各講師と保育教諭と連携し、子どもたちの興味や成長時期に適した教育を提供する。

3. 課題と検討

「教育課程・指導」で「幼児期に育てたい10の姿」を踏まえた上で、園の「教育・保育の目標」である〈楽しく遊ぶ子〉〈仲良く学ぶ子〉〈元気に育つ子〉に向かって各職員が指導計画を立てて実践する。コロナ禍になり3年が経ち、園児の発症、または濃厚接触者に当たらない限り、感染対策は緩和し、子ども同士の関わりはかなり濃厚になっている。成長段階に合わせて、一人ひとりの体づくりと運動能力を向上させるよう取り組んだ。子どもの発想や気持ちを受け止めて、のびのびと成長を出来るよう心掛けた。お迎えの時や個別懇談で、子どもの園の中での姿を伝えることで保護者との関係を築けるように努め

「健康管理」では、虫歯所有人数は少ないが虫歯所有児においての虫歯の本数が多いので、特に虫歯リスクについての指導をすること、また、「朝ご飯を食べて登園する」「朝からお菓子を食べない」「顔を洗う」「歯磨きをする」ように健康に関する生活改善指導する。どの子どもも健康で気持ちよく過ごす方法を身に付けられるようにしたい。コロナ感染予防として、登園後に全園児の検温をし、給食やおやつ時にはパーテーションを置く。2歳児以上はマスク着用をし、マスクを外した時はおしゃべりをひかえる等の対策と指導をした。市の指導に従い、感染者や濃厚接触者が出た場合には、学級閉鎖や登園自粛の実施を保護者に協力してもらいながら感染予防に取り組んだ。

「特別支援教育」では該当する園児はいないが、発達面で凸凹があったり、気になる行動をする子には特に、その子の気持ちを尊重し、一人一人に合った対応や丁寧な関わりを心掛け、その子なりの集団生活への参加を促した。その子なりに発達・成長が見られるため、引き続き丁寧な関わりと職員全体で状況の共有をしていきたい。

「子育て支援」では、保護者が感じる子育ての中での(困り感)にいち早く気付き相談に乗る。また、子どもの育ちの中で、その子に必様な援助方法を助言出来るよう、資質向上の努力する。未就園児お遊びの日「ひよこクラブ」では担当職員に子育て相談をしたり、母親同士のお話の場として好評を得て、口コミから利用者が増えた。保護者向けの研修会は、今年度は出来なかった。また、コロナ感染対策の為、「お遊びの日」の中止や内容の変更をして取り組んだ。

「教育環境整備」では、外部の講師による「体操教室」(年少・年中・年長)と「英語教室」(年中・年長)を実施した。「英語教室」は2年目になり、年中組は初めてだが、年長組は2年連続ということで講師にも慣れ、喜んで参加していた。月一回のペースなので、耳が発音慣れするところまではいかないが、経験する点において有意義で良かった。

その他として、令和4年度は、子どもたちにとっての行事の取り組みを考慮し、行事の時期を検討した上、運動会を9月から6月へと移行して2回目の開催になりました。3年度の反省から、内容の検討と早目に練習を始められるよう、年間を通しての運動の指導や、子どもの発達段階や成長を考慮し取り組んだ。コロナ感染対策として、保護者の観覧の人数制限や観覧場所、保護者参加の競技の皆無と、練習や準備を予定立てて出来たことで、当日はスムーズに行う事が出来た。また、保護者にも納得してもらえたこと、子どもたちが喜んで参加出来たことがとても良かった。未就園児の運動会は以上児運動会の翌月曜日にお遊戯場で行った。入場行進・開会式・準備体操・クラスごとの障害物競走・2歳児の徒競走・閉会式という内容で無理なく楽しんで出来たと思う。今後も楽しんで体を動かしていけるよう意識して運動遊びを行い、来年に向けて発達を促していきたい。

1年の中で、園児または職員・職員家族がコロナ感染者になることが数回有り、市の方針に従い、お迎えのお願いや登園自粛の対策を取った。そのたびに保護者の協力が得られ、感染の拡大は無く、「敬老の集い」を中止した他はクラス運営や行事など、予定通り行う事が出来て良かった。また、「安心メール」の活用により、コロナ感染についての連絡など迅速に情報を送れるようになった。